

平成21年度 事業報告書



社団法人 日本キャンプ協会

社団法人日本キャンプ協会平成21年度事業報告

－ 目次－

平成21年度事業総括	1
平成21年度事業報告	
1) キャンプの普及サービスに関する事業	3
2) キャンプの安全管理に関する事業	6
3) キャンプの指導者養成に関する事業	8
4) キャンプの調査研究に関する事業	10
5) キャンプの国際交流に関する事業	12
6) キャンプの情報サービスに関する事業	13
7) キャンプにおける諸基準の整備・評価等に関する事業	14
8) 出版に関する事業	15
9) 朝霧野外活動センターの運営	16
10) 各種団体等への協力・共催・後援	18
11) 会議の開催	19
CAMPING AWARD 2009 受賞者	20
社団法人日本キャンプ協会平成20・21年度役員	23
社団法人日本キャンプ協会平成20・21年度専門委員	23
都道府県キャンプ協会一覧(平成21年度)	25

平成21年度事業総括

平成21年度はA型インフルエンザウィルスの上陸で幕を開けたかたちとなりました。相当に強力なウィルスとの風評に巷間ではマスクが売り切れ、いろいろな催事が中止されるなど少なからぬ混乱がひきおこされました。キャンプ協会関係の事業についても実施の可否を検討し、中止せざるを得ないものもあったり、多くの団体の宿泊研修を受け入れている朝霧野外活動センターにおいては、インフルエンザの影響によるキャンセルや日程変更が目立ったことはこの年度の特長と言えます。

また、8月に行われた総選挙では民主党が大躍進を遂げ、9月には政権が交代しました。新しく登場した鳩山内閣のもとで矢継ぎ早に出された政策に様々な波紋が広がりました。

変化の多かった平成21年度でしたが、経済状況は相変わらず停滞したままで、国民の生活の苦勞が払拭されるにはまだまだ多くの時間が必要であろうと思われました。

第19回全国キャンプ大会は高知県キャンプ協会が主管し、高知県室戸市の国立室戸青少年自然の家をメイン会場として開催されました。永吉宏英大阪体育大学学長の「生きる力とこれからの野外活動」という基調講演をお聞きした後、4つの分科会に分かれいろいろな人(指導者)のキャンプ観に触れ、意義ある時間を共有することが出来ました。大会期間中は好天に恵まれ、280名を超える参加者は土佐の秋を十分に満喫しました。

一方、全国大会と同じ期間に第3回アジア・オセアニア・キャンプ会議が台湾の国立台湾師範大学で開催され、日本からは国際交流委員会のメンバーを中心に18名の方々が参加しました。開催時期が重なったことは残念でしたが、ここでも積極的な意見交換がなされ、北米が主流であったキャンプムーブメントが世界に広がっていくことを実感することができました。

このようなムーブメントの広がりはわが国でも例外でなく、野外活動・自然体験活動に対する社会の関心は相変わらず高いものがあり、行政の呼びかけによる「体験の風をおこそう」というムーブメントが広がるとともに、自然体験活動指導者の養成と資質の向上に力を結集しようという動きはこの年度も続きました。

本協会も昨年に引き続き、「青少年体験活動総合プラン」に基づく指導者養成を行いました。全国の小学校の自然体験活動を支援する指導者養成のプロジェクトは、全国7か所で実施し120名の指導者が「自然体験活動総合指導者」として登録されました。

しかしながら、本協会の新規指導者養成は本年度も養成者数において十分な成果を上げることが出来ませんでした。18歳人口の減少や長引く景気低迷の影響もあると考えられますが、キャンプムーブメントを支えていくのは人の繋がりであるということを強く認識し、早急にその立て直しを図らなければならないと考えています。



このような状況の中で、日本キャンプ協会にとっては46番目の支部協会となる「宮崎県キャンプ協会」が12月12日に設立されたことは大きな喜びでありました。設立総会には九州ブロックの各県から沢山の方々が駆けつけ、新しい門出を祝うと共に今後の協力を約束しました。

本協会では、一般の人々のアウトドアの安全に対する意識を啓発するために、7月第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定めてきましたが、この年度は国内の各種野外活動団体と合同で「Safety Outdoor」キャンペーンを実施しました。このキャンペーンには200の団体が参加し、40万人を超える人々にアウトドアの楽しさと安全の意識を喚起しました。また、キャンペーンの一環として「キャンプ安全標語」の募集をしてきましたが、この年度は2,420件の応募があり村岡孝司さん(兵庫県)の「キャンプ中変わる気象に変わらぬ注意」が最優秀作品に選ばれました。

指定管理3年目を迎えた静岡県立朝霧野外活動センターは、第1期の終了年度として、これまでの運営実績をふまえて中間的な総括を行い、次期も継続して指定管理者として施設運営を行うことを前提にスタートしました。

定期的に行われる外部評価委員会からの評価では昨年度と同様に良い評価(A)を得ることが出来ました。

また、この年度からの新たな取り組みとしては、地元静岡大学との共同研究「戦略課題研究(富士山)」の取り組みや新プログラム(朝霧高原トレイルランニングレース)の導入を行いました。

次期指定管理については10月23日に静岡県庁で管理運営の提案書に基づいたプレゼンテーションを行い、1月8日に次期5年間の指定管理者として指名を受けることが出来ました。

一方、この年度は日本キャンプ協会が将来的な堅調な運営のために公益法人化をめざし、組織のリニューアルと定款・規定(程)類の整備を行うとともに、将来のビジョンを描く年でもありました。その端緒として、新たに「県キャンプ協会規約」の雛形を作成し各都道府県に伝達しました。これは全国の都道府県キャンプ協会と日本キャンプ協会との関係整備を行う必要から実施されたことで、これらの作業は今後も続くことになります。

このように平成21年度は困難の多い中にも宮崎県キャンプ協会の設立、朝霧野外活動センターの次期指定管理決定などの喜びがあり、新しい様々な課題に取り組むことの出来た年度でした。この年度もキャンプの普及と振興のために事業をすすめることが出来たことを感謝申し上げると共に、今後も皆様のますますのご支援をお願い致します。



平成21年度事業報告

1) キャンプの普及サービスに関する事業

市民の豊かで充実した暮らしに資するために、キャンプが持つ「人々の成長に及ぼす力」を広く社会に向けてアピールし、キャンプの意義や楽しさが広く社会に理解されるよう一般市民に向けた事業展開を図った。

また、キャンプ指導者が活動を通して社会貢献の役割を担う事が出来るように、会員自身が「普及の意識」をもって活動を図れるような事業も行った。

1. 「第19回 全国キャンプ大会 in 高知・むろと」の実施

キャンプがもつ環境教育、青少年育成、生涯学習などの役割が広く一般に知られるようになることは大切なことである。全国のキャンプ指導者やキャンプ愛好者が一堂に会する全国大会という場を通して、日頃の研鑽の結果を発表したり情報を交換することによって、キャンプの持つ役割が再認識され今後のさらなる社会貢献の道を探る機会となった。また、分科会のディスカッションや情報交換会、各種プログラム等を通じて指導者や愛好者が交流を深めつつ刺激しあう場が用意されたことは意義のあることであった。

期 日：平成21年10月10日（土）～10月12日（月・祝）

会 場：国立室戸青少年自然の家（高知県室戸市）

対 象 者：全国のキャンプ指導者・キャンプ愛好者

参 加 者：287名

主 管：高知県キャンプ協会

後 援：文部科学省 高知県 高知県教育委員会（財）高知観光コンベンション協会

協 力：中・四国ブロックキャンプ協会、各都道府県キャンプ協会

協 賛：大塚製薬（株）（株）小川テント（株）モンベル（株）宿毛フェリー 高知会館 他

基調講演：「生きる力とこれからの野外活動」 永吉宏英氏（大阪体育大学学長）

内 容：CAMPING AWARD 2009 贈呈式 情報交換会

分 科 会

「ユニバーサルキャンプ」「これがキャンプだ」「環境と野外活動」「長期にわたる自然体験活動」
フリーチョイスプログラム

「ミニクルージング」「オーシャンカヤック」「シュノーケリング」「海洋深層水探検」「室戸の磯で遊ぼう」「室戸岬乱礁散歩」「イルカの魅力を体感」「ユニバーサルキャンププログラム」
「400年美林 魚梁瀬杉観察と馬路探訪」「モネの庭と中岡慎太郎館・吉良川歴史散歩」「室戸三山・室戸岬灯台へんろ道ウォーク地誕生の地を歩こう」「親子チャレンジ広場」



第19回 全国キャンプ大会 in 高知・むろと 2009

2. 「自然体験活動青年ミーティング2009」の実施

自然体験活動における若い指導者の育成は、今後の国内の自然体験活動を充実させる上で重要な課題である。自然体験活動青年ミーティングは、すでに自然体験活動の分野で活動している青年指導者やこれから活動を始めたいと考える青年が集い、野外技術や実践理論を学ぶ機会として行った。2泊3日の生活をともにすることで、自然体験活動の裾野を広げる「つながり」を形成することも大切なねらいとして実施した。

期 日：平成21年9月19日（土）～21日（月・祝）

会 場：川崎市黒川青少年野外活動センター（神奈川県川崎市）

対 象 者：おおむね30歳未満の自然体験活動指導者ならびに自然体験活動に関心を持つ若者

参 加 者：64名（参加者のみ）

主 管：自然体験活動青年ミーティング実行委員会（公募で組織し、企画・運営にあたる）

12名の応募があり、6名の実行委員を選出した。

内 容：講演・ワークショップ・トークセッションほか

後 援：日本アウトドアネットワーク、(財)ボーイスカウト日本連盟、(社)ガールスカウト日本連盟、
(財)日本YMCA同盟、(財)東京YWCA、日本環境教育フォーラム 他

3. キャンプの普及活動のためのプログラム開発（C-1プログラムの開発）

世代間を橋渡しするようなプログラムの開発を行い、年齢を超えたキャンプの交わりを作り出すプログラムを開発し、また各支部において子どもたちや若者、子育て世代、仕事を離れた団塊の世代など各年齢層の人々に新しい余暇の過ごし方を提案するものとして、デイキャンプの普及活動にも力を注いだ。

（全国キャンプ大会の「親子チャレンジ広場」で試験的にC-1選手権を実施した）

4. キャンプ・アカデミーの実施

社会やキャンプを取り巻く環境が大きく変化する今日、キャンプに求められる社会的役割も変化している。こうした中でキャンプ指導者が、社会に貢献できる知識や技能を得る場としてキャンプ・アカデミーを実施した。今年度は「心^{しん}トレ^ん心^{しん}のトレーニング」を題材に、コミュニケーションをテーマについて学んだ。

期 日：平成22年3月5日（金）・12日（金）（2回）

テ ー マ：「心^{しん}トレ^ん心^{しん}のトレーニング」 西田弘次氏（実践コミュニケーショントレーナー）

対 象 者：キャンプ指導者および一般市民

参 加 者：59名



自然体験活動青年ミーティング2009



C-1プログラム

5. 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および後援・協力

キャンプの企画、運営の受託や各種キャンプに関わる講演や講師派遣などの依頼に応え、協力をする。このことによってキャンプの普及を図るとともに、新しい社会的課題に触れ、キャンプの新たな社会貢献の可能性を見出し、指導者資格を有する会員の活躍の場の拡大を図った。

・受託事業

① Jリーグ サンフレッチェ広島スプリングスクール2009（サンフレッチェ広島主催）

期 日：4月1日（水）～3日（金）

会 場：広島市立似島臨海少年自然の家

内 容：グループ遠征・キャンプファイアー・野外料理 他

参加者：サンフレッチェ広島ジュニアチーム・スクール生52名、コーチ15名

協 力：広島県キャンプ協会

② Jリーグ・アカデミーフェスティバルへの協力

会 場	期 日	参加チーム	参加者数	協 力 協 会
きじま平	8月 4日～ 7日	37チーム	501名	長野県キャンプ協会
中伊豆	8月10日～11日	4チーム	98名	
仙 台	8月11日～13日	6チーム	96名	宮城県キャンプ協会
愛 媛	8月18日～20日	9チーム	191名	愛媛県キャンプ協会
鹿 島	8月23日～25日	13チーム	206名	
岐 阜	8月25日～27日	3チーム	52名	

内 容：きじま平・中伊豆会場では、ASEやキャンプファイアーなどのプログラムの提供
仙台・愛媛・鹿島・岐阜会場では、生活場面も含めたプログラムを提供

③ JOC（日本オリンピック委員会）への協力

ナショナルトレーニングセンター（東京都）を会場に、エリートアカデミーに参加する子どもたちへの体験活動プログラム、バンクーバーオリンピックに参加する選手のためのチームビルディング、各競技団体コーチへの研修プログラムなどを提供した。

● 宮崎県キャンプ協会の設立

平成21年12月12日（土）、46番目の支部協会として、宮崎県キャンプ協会が設立され、宮崎市内のホテル メリージュで設立総会が行われた。

宮崎県キャンプ協会は、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの指導者を中心に県内のキャンプ指導者が集まり結成された。設立総会は開会の言葉に続いて、宮崎県教育委員会のスポーツ振興課長 川崎重雄氏が来賓として「宮崎におけるキャンプ・野外活動の普及を促進する団体として大きな期待をしている」と述べられた。また、九州ブロックの各協会からも代表者が参加し、宮崎県キャンプ協会の前途を祝した。

宮崎県協会のおもな役員

会 長 池本 要（ボーイスカウト宮崎連盟）

副 会 長 寺田太郎（天理教日向司分教会）

事務局長 矢野弘善（天理教延岡分教会）



12月12日に行われた設立総会の様子

2) キャンプの安全管理に関する事業

他団体と連携した Safety Outdoor キャンペーンを通して一般のキャンプ愛好者への安全思想の普及と、引き続き求められているキャンプ指導者のリスクマネジメント能力の向上を目指し、以下の事業を行った。

1. 安全に関する情報、事故事例の収集・分析・公開

キャンプ、野外活動、自然体験活動等で発生したヒヤドキ体験の情報を広く全国から収集し、集計した。(約200名のオフィシャルレポーターに過去1年間で起こった体験についてアンケートを行った。)

2. 安全思想の普及(キャンペーン)

①安全キャンペーンの実施

アウトドアに関わる他団体と協力した「Safety Outdoor」キャンペーンを行い、グッズの作成・配布、アウトドア安全の日(7月19日)を中心にシンポジウム・体験イベントの実施をした。

また、都道府県協会やキャンペーンに賛同された約200団体の協力を得て、冊子の配布、安全講習会等の実施をした。のべ40万人超が参加し、安全への意識を高め、アウトドア活動が安全に楽しめることを知ってもらうきっかけとなった。

②「安全なキャンプのための標語募集(第5回)」の実施

一般の部に1,938件、少年少女の部に483件の応募が寄せられた。

審査の結果、一般の部・村岡孝司さん(兵庫県)の応募作品「キャンプ中 変わる気象に 変わらぬ注意」、少年少女の部・こがわれなさん(茨城県)の応募作品「パパ見てて私の笑顔と空模様」が最優秀作品とされた。

なお、村岡さんの作品は2010年度の会員証(裏面)にも刷り込まれている。

3. キャンプ安全マニュアルの作成と配布

「キャンプを企画する人のためのリスクマネジメントのてびき-安全なキャンプのために Part 10-」を8,000部作成し、キャンプ指導者や愛好者等に配布した。

内 容：キャンプの安全を計画段階、実施段階、事後を通して考え、キャンプにおける「危険」のとりえ方、計画段階から実施までの安全チェック、参加者情報の必要性和その扱い方、指導者がなう安全管理のポイント、事故が起きてしまったら・・・、保険は重要なリスクマネジメント、などの基礎的対策をまとめている。



会員証に刷り込まれた安全標語



安全なキャンプのために Part 10

4. 野外活動指導者のためのリスクマネジメントセミナーの実施

野外活動の各フィールドでの実践的な研修を通して、野外活動や自然体験活動の指導者の安全対策での資質向上を目的に、宮城県・大阪府の2会場で実施した。大阪会場は子どもゆめ基金助成事業として実施した。

期 日	主 管	会 場	内 容
11 月 14 日～15 日	宮城県キャンプ協会	宮城県立 松島自然の家	子どもの安全キャンプを考えることをテーマとして、海浜・水辺で起こった事故に学ぶ、救急法の基礎知識、心のリスクマネジメント、軍手・革手袋の安全度、リスクマネジメントエクササイズ体験・問題作成
平成 22 年 2 月 6 日～7 日	大阪府キャンプ協会 (共催) (財)関西レビ 青少年 育成事業団	大阪府立羽衣 青少年センター	気象における危険予知とその対応、危険予知不足で発生した事故の検証、キャンプの安全を楽しく学ぶために、身体で覚える度量衡、心の安全、応急手当の基本から AED 使用法まで、対象理解のためのコミュニケーション、プログラム指導現場にみる安全“食”、ディベート

5. 安全教育プログラムの普及

各地で行われたリスクマネジメントセミナーに出向き、参加者にリスクマネジメントエクササイズを体験してもらい、普及に努めた。



自転車の点検はOK？（宮城会場）



身体で覚える度量衡（大阪会場）

3) キャンプの指導者養成に関する事業

平成20年度から実施している小学校長期自然体験活動を支援する指導者の養成を引き続いて実施し、多くの受講者を得ることができた。キャンプインストラクターの申請者数が減少傾向にあるが、都道府県キャンプ協会での養成に支援を行い、まずまずの成果を上げることができた。インストラクター、ディレクターともに制度の見直しをすすめており、今年度はテキストの一部改訂に着手した。

1. 指導者講習会の開催

① キャンプインストラクター養成講習会（課程認定団体にて）

課程認定団体（大学・短大・専門学校・社会教育団体等による養成 3, 548名）

（支部協会による養成 610名）

② キャンプディレクター2級（プログラムディレクター）養成講習会（全国6ヶ所で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
大 阪	10月16日(金)～18日(日)	7名	大阪府立総合青少年野外活動センター
栃 木	10月23日(金)～25日(日)	3名	鹿沼市自然体験交流センター
静 岡	11月21日(土)～23日(祝)	3名	静岡県立朝霧野外活動センター
愛 媛	12月11日(金)～13日(日)	4名	松山市野外活動センター
宮 崎	平成22年1月9日(土)～11日(祝)	13名	宮崎県青島青少年自然の家
千 葉	平成22年1月29日(金)～31日(日)	7名	千葉市少年自然の家

③ キャンプディレクター2級（マネジメントディレクター）養成講習会（全国4ヶ所で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
東 京	6月27日(土)～28日(日)	9名	国立オリンピック記念青少年総合センター
福 岡	10月3日(土)～4日(日)	10名	筑紫野市生涯学習センター
大 阪	10月17日(土)～18日(日)	3名	大阪府立総合青少年野外活動センター
愛 知	11月7日(土)～8日(日)	5名	名城大学名駅サテライト

④ キャンプディレクター1級養成講習会（全国2会場で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
西日本	10月30日(金)～11月3日(祝)	9名	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11月19日(木)～23日(祝)	11名	静岡県立朝霧野外活動センター

⑤ キャンプディレクター1級検定会（全国2会場で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
東日本	22年1月16日(土)～17日(日)	8名	国立オリンピック記念青少年総合センター
西日本	22年1月23日(土)～24日(日)	14名	大阪府立少年自然の家



指導者養成講習会（大阪府立総合青少年野外活動センター）



指導者養成講習会（朝霧野外活動センター）

2. 指導者の審査・認定

① 資格申請者の審査・認定

認 定 日	キャンプインストラクター		キャンプディレクター2級		キャンプディレクター1級	
	受験者	合格者	申請者	合格者	申請者	合格者
平成21年 6月22日			10	10	4	4
11月12日			23	23	—	—
平成22年 2月10日			21	21	9	9
課程認定団体による養成分	4, 158	4, 158				
合計人数	4, 158	4, 158	54	54	13	13

② 指導者資格の更新

指導者資格	キャンプインストラクター	キャンプディレクター2級	キャンプディレクター1級
更新者数	6, 267	2, 242	1, 111

③ 課程認定団体の審査・認定

課程認定審査会を実施し、新規の課程認定団体の審査を行った。

審査会日程	団 体 名
平成21年 6月22日	A団体 山梨県キャンプ協会 B団体 玉川大学教育学部、明治大学星野ゼミ、東京純心女子大学 福岡YMCA国際ホテル・福祉専門学校、大泉保育福祉専門学校 大東文化大学スポーツ・健康科学部
平成22年 2月10日	B団体 足利短期大学、千葉大学教育学部、頌栄短期大学

平成21年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
45	126	10

④ 課程認定団体の連絡調整

課程認定団体の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成事例の紹介、事務連絡、アンケート結果の発表等を行った。

開 催 日	場 所	参加校	参加者
5月23日（土）	国立オリンピック記念青少年総合センター	39校	45名

⑤ 認定証、資格章（バッジ）等の作成

指導者の認定に伴い、認定証、資格章（バッジ）、登録用紙を作成した。



指導者養成講習会（鹿沼市自然体験交流センター）



指導者養成講習会（大阪府立総合青少年野外活動センター）

3. 「青少年体験活動総合プラン」による自然体験活動指導者の養成

自然体験活動指導者養成講習会（文部科学省委託事業） 全国7会場で実施

会 場	日 程	受講者	場 所
高 知	10月8日(水)～10日(金)	9名	国立室戸青少年自然の家
大 阪	10月16日(金)～18日(日)	21名	大阪府立総合青少年野外活動センター
栃 木	10月23日(金)～25日(日)	10名	鹿沼市自然体験交流センター
静 岡	11月21日(土)～23日(祝)	22名	静岡県立朝霧野外活動センター
愛 媛	12月11日(金)～13日(日)	6名	松山市野外活動センター
宮 崎	平成22年1月9日(土)～11日(祝)	26名	宮崎県青島青少年自然の家
千 葉	平成22年1月29日(金)～31日(日)	26名	千葉市少年自然の家

4. 指導者養成制度の改善に関する検討

平成22年度からの実施に向けて調整・検討を行った。

また実際の講習場面に即した内容になるよう、「キャンプ指導者入門」と「キャンプディレクター必携」の改訂作業に着手した。

4) キャンプの調査研究に関する事業

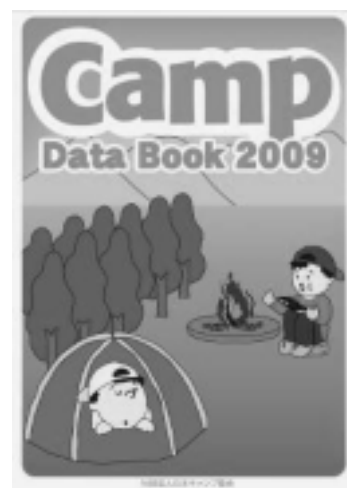
国内外の各種調査や研究成果の情報を収集し、広く提供するという、調査研究事業の役割を念頭に、今年度は、各種調査結果の分析と Camp Meeting in Japan に重点を置き、以下の活動を行った。

1. 「キャンプデータブック2009」の作成

2009年度中に発表されたキャンプに関する研究成果やデータを中心にとりまとめた「キャンプデータブック2009」を作成し、WEB上で公開した。

2. 『キャンプ研究』の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表の場として、本年度も継続して研究誌を発行した。



キャンプデータブック2009

■第13巻第1号（平成21年5月23日発行）（4,000部発刊）
Camp Meeting in Japan 2009 ー第13回日本キャンプ会議特集号

■第13巻第2号（平成21年11月30日発行）（1,500部発刊）

〔実践報告〕

- 「20/20 Vision」と「多様性への挑戦」
～2009年全米キャンプ会議に参加して～

〔研究資料〕

- 教職を意識したキャンプ実習の一考察

〔報 告〕

- Camp Meeting in Japan 2009

ー第13回日本キャンプ会議ー

全体会報告

～みんなでつくるあしたのキャンプ
(安全管理編)～



キャンプ研究13-1. 13-2

3. Camp Meeting in Japan 2009 ―第13回日本キャンプ会議―

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通して、情報の共有化、指導者の交流を促す機会として開催した。

期 日：平成21年5月23日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参 加 者：157名 発表者21名

内 容：キャンプの実践報告および研究発表

〔口頭発表〕 14題

●組織キャンプにおける儀式プログラムの意義と役割―米国キャンプ・オーアトカにおける騎士道プログラム― ●病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプを―医療設備を備えた日本初のキャンプ場開設に向けた、そらぶちキッズキャンプの取り組み― ●休止スキー場を活用したキャンプの試み―白山市アドベンチャーキャンプの実践から― ●指定管理者団体における野外活動事業の申込状況の推移 ●組織キャンプが参加者の環境リテラシーに及ぼす効果と要因の関連 ●ロールレタリングを用いたスタッフトレーニングプログラムの開発 ●中国における野外専門運動基地の現状―天津市山野運動基地― ●実地踏査等を重視し当事者意識を重視した養成プログラムで指導者になることの意義 ●教員・保育者をめざす女子大学生を対象としたチャレンジキャンプの実践報告 ●活動の質を高めるチャレンジとリラックスの落差の追求―日常生活に「持ち帰り・般化・敷衍・思い出し」可能なキャンプでの身体感覚・技法― ●冒険キャンプにおけるキャンプ場面でのふりかえり体験の調査 ●長期キャンプ参加者と指導者の内面的成長について考える（1） ●体験がもたらす教育的効果 ●幼児とその保護者における自然体験の現状―子どもの育つ環境による自然体験の違い―

〔ポスター発表〕 7題

●週末を活用した親子キャンプの試み―スケートキャンプの実践報告― ●「スノーシューを履いて雪の原野での自然観察会」実践報告 ●静岡県立朝霧野外活動センター利用団体の教育的効果に関する調査―1年目結果報告― ●Means-End Analysis を用いたキャンプ効果の要因の検討 ●子育て支援としての「ママチルキャンプ」8年間の経緯と継続上の課題 ●小学校長期自然体験活動の効果とその要因―鹿沼市自然体験交流センターを事例として― ●幼児キャンプにおけるイラストを用いた健康管理の試み



Camp Meeting in Japan 2009（第13回日本キャンプ会議）

5) キャンプの国際交流に関する事業

日本キャンプ協会の国際交流事業は、アジア・オセアニア・キャンプ連盟 (Asia Oceania Camping Fellowship / AOCF) ならびに国際キャンプ連盟 (International Camping Fellowship / ICF) を通じた国際交流事業を中心に、世界のキャンプ文化の共有化を図る取り組みを行っている。2009 年度は台湾で行われた第3回アジア・オセアニア・キャンプ会議の日本人参加者へのサポートなどを通じて、会員に交流と学びの機会を提供した。

1. 第3回アジア・オセアニア・キャンプ会議におけるワークショップ等の実施と参加者のサポート

台湾・台北市で行われた第3回国際キャンプ会議 (The 3rd Asia Oceania Camping Congress) の日本からの参加者に対する情報提供等を行うとともに、ワークショップ等の実施におけるサポートを行った。

期 日：10月9日 (金) ～10月11日 (日)

会 場：国立台湾師範大学 (台北市) ほか

参加者：約150名 (スタッフ含む) 日本からの参加者18名

2. アジア・オセアニア・キャンプ連盟事務局の運営

アジア・オセアニア・キャンプ連盟の事務局としてホームページを通じた情報提供などを行った。

3. 国際ワークショップの開催

ICF Friends in Japan (ICFFJ)、アジア・オセアニア・キャンプ連盟 (AOCF)、ラボ教育センター (第1回のみ) と共同で海外のキャンププログラムなどを紹介するワークショップを実施した。

第1回「世界のキャンププログラム」

期 日：6月14日 (日)

会 場：ラボ教育センター (新宿区)

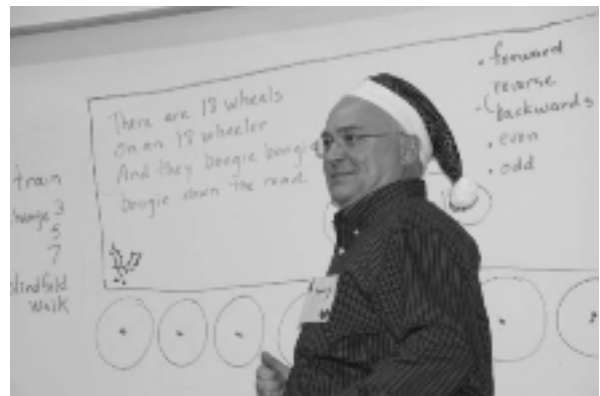
参加者：15名

第2回「ラリー・スウェンソンの世界」

期 日：12月6日 (日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：33名



ラリー・スウェンソンの世界



ゲームのワークショップ



クロージングパーティにて

(第3回アジア・オセアニア・キャンプ会議)

6) キャンプの情報サービスに関する事業

本協会の事業内容やキャンプ・野外活動の動向、キャンプの教育的な意義等を伝えることに加え、新しいキャンプの技術やゲームの紹介など、日常のキャンプ活動に役立つ情報を多く発信することに努めた。また、ホームページの更新やメールマガジンの配信等、ITを利用しての情報伝達にも意を用いた。

1. 会報「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報の提供および会員相互の情報交換のための会報を隔月、年6回発行した。「キャンプ指導者として知っておきたい・考えてみたいことをわかりやすく」をコンセプトに紙面づくりを行った。

また、第130号より、表紙を絵本作家の村上康成さんのイラストにしたり、新たな連載を始めるなどの変更を行った。

第128号	4月1日	特集「記録」	
第129号	6月1日	特集「リスクマネジメント」	
第130号	8月1日	特集「夜のアクティビティ」	
第131号	10月1日	特集「はじめてのキャンプII」	
第132号	12月1日	特集「コミュニケーション」	
第133号	2月1日	特集「四季を感じる」	(各20,000部発行)



2. ITを有効活用した情報発信

①ホームページの運用

「CAMPING」では紹介しきれない新しい情報を会員に伝えたり、会員以外の方々にキャンプ協会やキャンプについて知っていただくためにホームページの運用を行った。

年間アクセス数：187,843 セッション 1,120,076 ページビュー

②メールマガジン「CAMPING News」の発行

各種事業やBUC情報など、新しい情報を配信した。

年間発行回数：17回（3週間に1度の発行）

発行形態：メール配信(590名)・会員SNS「会員のひろば」利用者への告知(371名)・メールマガジン発行システム「まぐまぐ」の利用(67名)・ホームページでのPDFの公開

3. キャンプ・インフォメーションセンター

キャンプ協会の対外窓口として、キャンプに関するさまざまな相談に応じるとともに、キャンプの普及につながる資料の発行等を行った。

① 電話や電子メールによる相談に対応するほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、日経BP「日経 Kids+」、学研「ぽけ」等マスコミの取材対応を行った。（年間受付相談52件）

②小学生を対象とした「キャンプを安全に楽しもう！～セーフティアウトドアハンドブック～」を作成し、全国の小学校に配布した。（高島株式会社の協賛により実施）

4. オフィシャルレポーターによる会員ニーズのマーケティング

「CAMPING」の内容を中心に年6回のモニタリングを行った。（199名）



キャンプの情報がいっぱいホームページ



メールマガジン「CAMPING News」



小学生を対象とした「キャンプを安全に楽しもう！
～セーフティアウトドアハンドブック～」

7) キャンプにおける諸整備・評価等に関する事業

全国各地で展開されているキャンプ協会の様々な活動は都道府県キャンプ協会によって担われている。それ故、全国の各協会がしっかりと体制を整え、会員の力を集結することによって、一層の活動の充実が期待出来る。

都道府県協会が本来持っている可能性を自ら引き出し、多様な社会のニーズを受け止めようと努力することが地域の中でよい社会貢献を果たすことにつながると考えられる。従って、そのような考えのもとに、今年度も現場主義に立った支部活動の支援を行った。

1. 「支部運営マニュアル2009」の作成・配布

「支部運営マニュアル2009」を作成し、各都道府県協会に配布し全国事務局担当者で共通理解を図った。

内 容：1. 日本キャンプ協会がめざすもの 2. キャンプ協会のしくみ 3. 支部協会の役割 4. キャンプ協会の年間スケジュール等 5. 会員の意志を反映する組織づくり 6. 予算・決算と日常の会計処理について 7. 事業を企画する 8. 支部活動を発信する 9. 日本キャンプ協会が行う支部への支援 10. 日本キャンプ協会が用意している保険 11. 個人情報に関する規程

2. BUCの承認

キャンプ指導者が基本的な知識を再確認すること、新しい学びや情報を入手することは、生きた指導をするために大変重要なことである。あわせて、指導者相互の顔の見える関係を作り出し、指導者間の信頼できるネットワークを広げてゆくことも必要なことである。各支部協会が行う各種事業について条件を満たすものにBUCの承認を行い、必要のある事業には実施のための費用負担を行った。

年 度	BUC開催数	はがき登録者数	開催協会	備 考
19年	116	1,343人	40+1	実施回数には日本協会実施のものも含む。 平成21年度は新型インフルエンザの影響で中止等が例年より多かった。
20年	123	1,534人	39+1	
21年	123	1,397人	41+1	

3. 都道府県キャンプ協会の規定(雛形)の作成

日本キャンプ協会の公益社団法人化に伴う準備の一つとして、全国のキャンプ協会との関係を整備する必要があるため、各協会が備えるべき規定の雛形を作成し提案した。

4. キャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを普及するために、(財)日本宝くじ協会より助成を受け、全国の支部協会にキャンプ講習会、指導者研修、各種キャンプ、全国大会等に利用出来るテントの配布を行った。

8) 出版に関する事業

キャンプについての情報や技術を、できるだけ多くに人々に知らせることを目的にキャンプ関連書籍の出版計画を検討した。

1. 「キャンプ指導者入門」の改訂

キャンプインストラクター養成講習会に使用する「キャンプ指導者入門」の改訂を行った。

2. 「キャンプディレクター必携」の改訂

キャンプディレクター養成講習会に使用する「キャンプディレクター必携」の改訂に向けた準備を行った。

3. ISBNコードの付記

日本図書コード管理センターへ申請した出版物のISBNコード管理を行った。

4. 書籍の出版

学校教員のための Let's try camping シリーズ『キャンプの積み木』(仮称)【運営編・指導編】の出版計画を検討した。



各地で開催されたBUCプログラム

9) 朝霧野外活動センターの運営

1. 指定管理者として3年目の管理運営

3年間の指定管期間が終了する本年度は、これまでの運営実績を踏まえた中間的な総括を行い、次期も継続して指定管理者として施設運営を行うことを前提に新しい年度をスタートした。

それぞれの主催事業ではキャンプ協会のもつノウハウを活かし、プログラムがマンネリ化することを避け随所に新しい試みを加えることに意を用いた。その一例として、朝霧野外活動センターが継続してきた長期少年キャンプは「朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～」というタイトルに示されるように、富士山周辺の環境を学び、その中からキャンパーの生活意識の変容を促すキャンプとして組み立てられた。

施設の管理運営については修理、補修等に苦労が絶えないが、利用者の安心・安全を第一に考えて進めてきた。

また、キャンプ場のヒノキの間伐はこの年度も地元財産区の協力を得て継続実施し、光が差し込むようになった森に鳥の声が増えたことは嬉しい成果であった。

次期の指定管理に関しては、10月23日(金)に静岡県庁で管理運営の提案書に基づいたプレゼンテーションを行い、1月8日に正式に平成22年度から平成26年度までの5年間の指定管理者として指名された。

2. 利用状況

この年度の利用者数目標は本館棟44,700人、キャンプ場20,777人となっており、本館棟では5,000人強の大幅な利用者増となったが、キャンプ場においては目標を2,500人下回った。

キャンプ場の利用者数減少の要因の一つは、利用団体の規模が年々小さくなる傾向があることと思われる。キャンプ場の利用団体数は平成19年度122、20年度136、21年度133と増加傾向にあるが1サイト1団体の貸し切りを原則としているので、利用団体の増が利用者数の増に反映しないという状況となった。

また、この年度は新型インフルエンザの流行による影響もあり、予約のキャンセルや日程変更が多かった。

本館棟利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	3,138	5,518	4,233	4,347	5,031	3,676	3,266	5,518	2,592	2,007	2,365	3,318	45,009
20	3,663	6,631	4,196	5,663	5,508	2,963	3,943	5,215	2,374	1,837	2,562	3,646	48,201
21	4,009	5,728	3,466	6,193	5,030	3,414	3,654	8,196	2,328	2,229	2,331	3,773	50,351

キャンプ場利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	167	4,653	2,799	2,080	4,178	1,954	835	172	207	85	95	215	17,440
20	87	4,180	2,743	3,501	3,311	1,777	941	188	396	116	119	262	17,621
21	157	3,428	1,527	2,247	4,314	2,682	1,083	968	409	352	298	726	18,191



好評のファミリープログラム



環境を考えるキャンプ つながろう富士山

3. 成果（新たな取り組み）

本年度は、静岡県の委託事業「戦略課題研究（富士山）」を静岡大学との共同研究として取り組んだ他、文部科学省の「青少年の課題に対応した体験活動推進プロジェクト」において前述の「朝霧高原サマーキャンプ」で「長期キャンプの環境教育的意味～自然体験の効果及び感性におよぼす効果からの検討～」を調査し、研究報告書を発刊した。

4. 主催事業実績

事業種	事業名	実施期間	対象	参加者数
青少年自然体験事業	朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月 4日(土) 8月 1日(土) ～ 9日(日)	小5～中3	39人
野外教育指導者 養成事業	宿泊利用団体担当者 研修会	4月17日(金) 9月 6日(日) 2月12日(金)	利用団体担当者	274人
	野外活動プログラム実習	4月18日(土)～19日(日)	利用団体指導者	81人
	長期キャンプ指導 者養成講習会	6月20日(土)～21日(日) 7月 4日(土) ～ 5日(日) 8月 1日(土) ～ 9日(日) 10月17日(土)～18日(日)	大学生 短期大学生 専門学校生 (全4回参加)	27人
	野外活動指導者 養成講習会	2月 5日(金) ～ 7日(日) 3月 5日(金) ～ 7日(日)	教育関係者	37人
県民自然体験事業	ちょっといい春 感じませんか	4月25日(土)～26日(日)	家族等	131人
	ステキな秋をあなたに	10月 3日(土) ～ 4日(日)	家族等	118人
	オリエンテーリング in 朝霧	11月28日(土)～29日(日)	グループ等	251人
	朝霧高原トレイル ランニングレース	9月 6日(日)	グループ等	600人
施設開放事業	朝霧カーニバル	11月8日(日)	一般	6,200人
	スケートキャンプ	12月11日(金)～12日(土) 1月15日(金)～16日(土) 2月19日(金)～20日(土) 3月12日(金)～13日(土)	家族等	185人
	スケート一般開放	11月～3月の毎日曜日	一般	2,556人
	プラネタリウム一般開放	毎月第3日曜日	一般	1,968人
社会問題に対応した 事業	ホッとキャンプ	3月8日(月)～12日(金)	不登校児童生徒・ひきこもり がちな青年	11人



朝霧野外活動センターから望む富士山

10) 各種団体等への協力・共催・後援

キャンプ、野外活動の普及・振興に関する事業の後援等を行った。

【共催・後援・協力】

団 体 名	期 間	事 業 名	
(財)修養団(S Y D)	4/1～3/31	幸せの種まきキャンペーン	後 援
(財)修養団(S Y D)	4 月～3 月	子どもゆめ体験アクションプラン 2009	後 援
Dr.Jim Cain's workshop 実行委員会	5/17 5/20～21	Dr.Jim Cains workshop in Japan 2009	後 援
(財)横浜市体育協会	6/12～1/30	横浜市アウトドアリーダー講座	共 催
(財)横浜市体育協会	6/13～1/31	平成 21 年度横浜市野外活動指導者養成講座	後 援
(財)ひの社会教育センター	6/20～21	キャンプで使えるアウトドアゲーム講習会	後 援
(財)修養団(S Y D)	7/25～8/25	子ども自然体験キャンプ	後 援
(財)修養団(S Y D)	7/27～31	自然体験リーダー養成キャンプ	後 援
(NP0)環太平洋学生キャンプ	8/1～8/16	第 25 回環太平洋学生キャンプ	後 援
福島県キャンプ協会	8/21～23	平成 21 年度キャンプインストラクター養成講習会	後 援
(株)学習研究社	8/16～19	学研キャンプ	後 援
(財)修養団(S Y D)	8/17～23	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後 援
(財)日本サイクリング協会	9/12～13	2009 Mt.FUJI エコサイクリング	後 援
(財)日本レクリエーション協会	9/19～21	第 63 回全国レクリエーション大会	協 力
(財)日本サイクリング協会	9/20	2009 東京シティーサイクリング	後 援
(NP0)東京都キャンプ協会	9/26～29	東京キャンプフェスティバル 2 0 0 9	後 援
(財)日本教育科学研究所	10/16～18	アウトドアゲーム指導法講習会	後 援
(財)修養団(S Y D)	2/11	SYD ボランティア奨励賞	後 援
(財)修養団(S Y D)	2/11～13	青年ボランティア・フェスティバル	後 援
鹿児島県キャンプ協会	2/20～21	平成 21 年度アウトドア活動セミナー	後 援
(財)修養団(S Y D)	3/31～4/5	青年ボランティア・アクション in 福島	後 援

1 1) 会議の開催

会 議 名	回 数	開 催 日
総 会	2	5月23日 3月20日
理 事 会	2	5月23日 3月6日
常 務 会	7	5月13日 6月14日 7月19日 8月23日 10月20日 12月19日 2月18日
運 営 会 議	6	5月13日 6月29日 9月7日 11月16日 1月18日 2月22日
会 計 監 査	1	5月19日 2月16日～17日(渋谷税務署)
全国事務局担当者会	3	5月24日 10月12日(室戸) 3月21日
支部ブロック会議	10	5月24日 全ブロック 東京(国立青少年センター) 6月27日 九州・沖縄ブロック 佐賀県武雄市 6月27日～28日 関東ブロック 栃木県日光市 7月11日 近畿ブロック 和歌山県和歌山市 9月5日～6日 中国・四国ブロック 高知県室戸市 10月12日 全ブロック 高知県室戸市 10月17日～18日 中部・北陸ブロック 岐阜県関ヶ原町 11月15日 北海道・東北ブロック 宮城県東松島市 2月21日 近畿ブロック 兵庫県尼崎市 3月21日 全ブロック 東京(国立青少年センター)
専 門 委 員 会		
総務委員会(常務会)	7	5月13日 6月14日 7月19日 8月23日 10月20日 12月19日 2月18日
普及サービス委員会	5	4月20日 6月8日 7月13日 11月9日 1月25日
指導者養成委員会	11	4月16日 5月23日 5月24日 6月22日 8月20日(対外編集) 9月2日(対外編集) 9月7日(対外編集) 9月13日 11月12日 2月10日 2月11日(対外編集)
情報サービス委員会	9	4月12日 4月18日(CAMPING renewal meeting) 6月8日 7月6日 9月7日 10月19日 12月5日～6日(朝霧) 1月25日 3月15日
調査研究委員会	3	4月30日 6月26日 12月11日
安全管理委員会	3	5月22日 9月14日 12月14日
国際交流委員会	5	4月7日 6月9日 9月14日 11月24日 2月9日
基準整備委員会	6	4月17日 5月24日(支部事務局研修会) 7月3日 9月25日 12月4日 2月26日
出 版 委 員 会	1	10月7日
朝霧運営委員会	1	9月18日～19日
その他の会議		
青年ミティング実行委員会	3	5月9日～10日 6月11日 8月31日
宮崎県協会設立準備会	1	6月28日
文部科学省委託事業運営会議	1	9月28日
在居団体協議会	1	10月15日
事務局会議		毎週水曜日 随時
朝霧野外活動センター関係	9	所長会：4月9日 4月22日 5月14日 6月30日 7月8日 9月4日 11月13日 2月5日 3月3日 静岡県内各青少年施設 3 外部評価委員会：6月8日 8月3日 3月24日 静岡県庁 1 指定管理提案書プレゼンテーション：10月23日 静岡県庁 1 監査：11月10日 朝霧野外活動センター 2 全青少施管理者会：1月21日～22日 国立淡路青少年交流の家 1 静青施協合同職員研修会：2月16日～17日 浜松市立かわな野外活動センター 1 地域懇談会：11月8日 朝霧野外活動センター 3 食堂定期協議会：9月3日 11月6日 3月12日 朝霧野外活動センター

＊特に表記のない場合、会場は東京・国立青少年センターです。

CAMPING AWARD 2009 受賞者

エコキャンプ みちのく

【宮城県キャンプ協会】

エコキャンプみちのくは少年教育や環境教育に力を入れておられ、県協会の事業にも理解を示され、用具の無料貸し出しや恒例のファミリーキャンプ大会の共催者となるなど、協会の事業展開に多大な尽力をいただいている。また、キャンプ場が提供するボランティア活動の場を通して、会員自身のスキルや人とのコミュニケーション能力が磨かれ、指導者のレベルアップが図られたことを感謝するものである。

坂 谷 壽 雄 （さかや としお）氏

【秋田県キャンプ協会】

平成6年秋田県キャンプ協会の発足当初から現在まで長年にわたり理事長を務め、会の基盤作りと発展に尽くしてこられた。会運営や事業実施にあたってのスタッフに対する的確なアドバイスは、常に人づくりを意識したものであり、会員の精神的な支えとして大きな役割を果たしている。また、長い人生経験から話される指導者講習会での講義やキャンプでの夜話はキャンパーの心に深くしみ込み、感動を与えてくれる。

安 達 昭 一 （あだち しょういち）氏

【山形県キャンプ協会】

山形県キャンプ協会設立当初から役員を務め、特に平成15年度からの6年間は会長として尽力された。本協会の主要事業である蔵王坊平ファミリーキャンプ村では村長を務め、参加者に安全・安心で楽しいキャンプを提供すると共に「ゴミを出さないキャンプ」を推奨するなど環境面の配慮も怠らない。また、指導者養成講座では自ら進んで講師を勤め、受講生からは「月光仮面のショウちゃん」の愛称で親しまれている。

今 井 和 彦 （いまい かずひこ）氏

【新潟県キャンプ協会】

昭和60年の市子供会指導者会入会を皮切りに、キャンプカウンセラー協会入会。同協会副会長を経て新潟県キャンプ協会副会長、平成16年4月には会長となる。平成20年に県キャンプ協会監事となり現在に至る。25年にわたり県内の野外活動の推進役を果たし、特に、中心となって進めてきた長岡キャンプカウンセラー協会主催の「わんぱく共和国」は27年間も続く、市民から高い評価を得ている事業である。

村 上 敬 吾 （むらかみ けいご）氏

【栃木県キャンプ協会】

環境問題のスペシャリスト。本協会が創立以来最も大きな夢を託してきた自然生活体験キャンプの環境の保全と安全対策を第1回目から担当。特に、使用後の水は完全に浄化して自然に帰すをモットーに長年蓄積された専門知識と体験を活かすなど、参加者の意識改革に大きな影響をもたらしている。栃木県の環境関係の要職を退官後は協会の広報を支援するなど、協会運営と会員の資質向上に新しい息吹をもたらした。

石 坂 ち よ （いしざか ちよ）氏

【(NPO)千葉県キャンプ協会】

1958年山梨の西湖でボーイスカウトの指導者として参加して以来、50余年のキャンプとのかかわりを続けて来られた。中でもガールスカウト指導者として33年間、千葉ではキャンプ委員長を歴任された。千葉県キャンプ協会では理事としてその運営にかかわりながら、インストラクター養成講習会をはじめ各種講習会の企画・運営に携わり、現在は監事を務めておられる。

後 藤 信 郎 （ごとう のぶお）氏

【(NPO)東京都キャンプ協会】

東京都キャンプ協会の事務局長として献身的な活躍をされ、現在の協会の方向性を示された。特に、機関紙CATレターの一新や総力キャンプの企画・運営は、東京都キャンプ協会の大きな力となった。

一方、JON研修所教務、中野区子ども会のアドバイザーなどを歴任、長年キャンプの普及活動に努めてこられた。その緻密な企画力と実践力は定評があり、温和な性格とともに周囲からの高い信頼を得ておられる。

林 美 貴 子 （はやし みきこ）氏

【岐阜県キャンプ協会】

岐阜県キャンプ協会設立以前の岐阜県野外活動研究会よりキャンプ活動にかかわり、野外活動一途15年。現在は、岐阜県キャンプ協会の事務局員として、役員はもとより会員の取りまとめ役として活躍しておられる。また、職場の授産施設では障がいのある人たちのキャンプを毎年実施され、将来の「福祉キャンプ」の実施を願って努力を続けておられる。

安井 三郎（やすい さぶろう）氏

【愛知県キャンプ協会】

昭和40年代から、キャンプ、レクリエーションの指導者として活躍すると同時に、指導者の養成にも力を発揮し、愛知県内のキャンプ発展に大きく貢献された。昭和57年、愛知県キャンプ協会の前身である愛知県キャンプ指導者連絡協議会設立の中心メンバーとして活動され、愛知県キャンプ協会設立後は、平成20年度まで26年間にわたり、理事・参与・常任顧問を歴任され、会の発展に寄与された。

橋本 紀美子（はしもと きみこ）氏

【京都キャンプ協会】

京都キャンプ協会が設立された1980年から2008年までは理事として、現在は監事として本協会の発展に多大な貢献を果たされた。ガールスカウト京都支部では40年間にわたってリーダーとして活躍され、国際委員長、副支部長をはじめとした役員を歴任してこられた。また、本協会とガールスカウト活動、そして地域とを結びつけるキーパーソンとしての働きには特筆すべきものがある。

社団法人ガールスカウト日本連盟 大阪府支部

【大阪府キャンプ協会】

1948年に発足し、戦後の混乱の時期から一貫して野外活動を通して青少年に多くの夢を与え、キャンプ活動の普及・発展に多大な貢献をされてきた。また、大阪府キャンプ協会の発足当時より理事の役割を担われ、協会の発展に尽された功績には特筆するものがある。少子化の中で現在93団体2820名が野外活動プログラムを主にスカウト活動に取組み、青少年の健全育成に大きな役割を果たしておられる。

兵庫県立 いえしま自然体験センター

【兵庫県キャンプ協会】

兵庫県キャンプ協会発足当時より、野外活動中・上級指導者養成講座の中核ゲレンデであり、無人島キャンプや兵庫県キャンプ協会20周年事業の実施の際には多大な支援をいただいた。海、島の豊かな自然に恵まれ、これほど多様な活動のできる施設は全国的にもまれである。現在は海の環境学習への取り組みが始められ、自然体験センターとしての新たな役割を担いつつある。

奥田 博（おくだ ひろし）氏

【奈良県キャンプ協会】

野外活動の分野では、平成4年の奈良県教育委員会勤務を皮切りに、奈良県立青少年野外活動センター指導業務、国立曽爾青少年自然の家事業課長などを歴任され、専門員・指導員として野外教育施設で青少年の指導・育成に携わられた。その間、米国マイアミでの全米レクリエーション大会やカナダでのキャンプ研修に参加するなど幅広い活動を経験された。現在は県協会の副会長として活躍しておられる。

佐佐木 幸雄（ささき ゆきお）氏

【島根県キャンプ協会】

昭和51年から地域の青少年健全育成を目的として、一貫してキャンプ活動の充実・発展に努力された。

昭和62年の文部省補助事業「フロンティア・アドベンチャーキャンプ」ではプログラム企画・運営における県内の中心的存在であり、平成6年の全国レク大会キャンプ部門においても故坪田愛華さんの遺作『地球の秘密』にヒントを得た、環境問題をテーマに掲げたキャンプの企画・運営のチーフとして活躍された。

和田 芳治（わだ よしはる）氏

【広島県キャンプ協会】

広島県キャンプ協会の前身である広島県野外活動協会の昭和49年設立当初から、協会の運営・指導に中心的に携わり、現在は広島県キャンプ協会理事として協会の発展にご尽力をいただいている。

現在も指導者として、広く県内外の公共団体、企業及び各種団体の指導者養成の講師として活躍され、氏のキャンプ理論及び指導法、人柄に深く感銘、影響を受けた指導者は数多く、それぞれ各地で活躍している。

矢田 紀代子（やだ きよこ）氏

【高知県キャンプ協会】

1991年、高知県キャンプ協会の設立にあたりその中核として尽力された。以来、事務局長、副会長としてキャンプの普及、組織運営、指導者養成等に献身的な努力をされ、高知県キャンプ協会の基礎を築かれた。当初より熟年キャンプを企画運営し、高齢者の福祉キャンプへと発展させ、現在は高知県福祉レクリエーション研究会の代表として福祉レクリエーション指導者の養成にも積極的に取り組んでおられる。

近 藤 信 幸 （こんどう のぶゆき）氏

【福岡県キャンプ協会】

長年、福岡県内の野外活動団体の組織研修を行ったり、子どもキャンプの指導や地域の指導者育成に第一線でかかわってこられた。平成元年の福岡県キャンプ協会設立に参画され、平成6年理事に就任された。

その後、平成17年からは安全管理委員長として「リスクマネジメントセミナー」を運営。平成21年からは幅広い人望をかわれ、福岡県キャンプ協会副会長としての重責を担っておられる。

黒 木 哲 郎 （くろき てつろう）氏

【長崎県キャンプ協会】

長崎県キャンプ協会の設立発起人として尽力され、それ以来理事として協会の運営にかかわり、何度となく組織についての適切なアドバイスを行うなど、長崎県キャンプ協会に果たした役割は大きい。

また、本協会が設立当初から続けているキャンプインストラクター養成講習会では講師を務められ、長年の山岳経験で培われたノウハウが随所に生かされた指導力は誰もが認めるところである。

森 近 （もり ちかし）氏

【熊本県キャンプ協会】

教育キャンプやスポーツ少年団の指導をきっかけに、昭和49年、仲間と市有林の一角を借りてキャンプ場を開き、水俣市野外活動協会を設立して現在に至る。

また、平成18年度まで熊本県キャンプ協会理事、19年度より熊本県キャンプ協会相談役に就任され、長きにわたって熊本県の野外活動の振興と普及に貢献されている。

山 田 恵 美 子 （やまだ えみこ）氏

【(NPO)沖縄県キャンプ協会】

1985年の沖縄県キャンプ協会の設立当初より今日に至るまで協会理事(副会長)として組織運営に多大な貢献をされた。また、本協会が実施するキャンプインストラクター養成事業でも講師を務められ、指導者養成に尽力されている。一方、長年ガールスカウト活動に参加され、事務局の書記、支部長として活躍されるとともに沖縄県の青少年健全育成に尽力、そのリーダーシップは高い評価を受けている。



CAMPING AWARD 2009 受賞のみなさん

社団法人日本キャンプ協会 平成20・21年度 役員

名 誉 会 長	酒 井 哲 雄	頌栄保育学院 学院長
顧 問	梅 田 利 兵 衛	東京教育大学 名誉教授
顧 問	齊 藤 保 夫	元 城西大学 教授
顧 問	富 岡 幸 生	(財)日本健康開発財団 専任講師
顧 問	中 村 典 男	(NPO)東京都キャンプ協会 顧問
顧 問	長 谷 川 純 三	(社)日本オートキャンプ協会 会長
会 長	野 澤 巖	埼玉大学 教授
副 会 長	鳥 井 信 吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副社長
副 会 長	野 間 口 英 敏	東海大学 教授
専 務 理 事	星 野 敏 男	明治大学 教授
常 務 理 事	石 田 易 司	桃山学院大学 教授
常 務 理 事	神 崎 清 一	(財)日本YMCA同盟全国総主事会会長
理 事	尾 崎 裕 美 子	(財)東京YWCA 総幹事
理 事	郭 麗 月	かく・にしかわ診療所 医師・心斎橋心理療法センター代表
理 事	川 野 正 雄	岡山県キャンプ協会 理事 (中・四国)
理 事	桑 田 千 照	兵庫県キャンプ協会 会長 (近畿)
理 事	小 林 孝 之 助	(財)ボーイスカウト日本連盟 事務局次長
理 事	後 藤 信 郎	(NPO)東京都キャンプ協会 事務局長 (関東)
理 事	佐 藤 初 雄	(NPO)国際自然大学校 代表
理 事	柴 田 俊 明	(財)伊藤忠記念財団 助成事業部長
理 事	守 随 純 子	(社)ガールスカウト日本連盟 常任理事
理 事	白 垣 伍 男	佐賀県キャンプ協会 理事長 (九州・沖縄)
理 事	永 吉 宏 英	大阪体育大学 学長
理 事	長 谷 川 孝	宮城県キャンプ協会 副会長 (北海道・東北)
理 事	藤 木 正 範	石川県キャンプ協会 理事長 (中部・北陸)
理 事	吉 田 大 郎	(社)日本キャンプ協会 事務局長
監 事	片 岡 敬 一	(財)日本レクリエーション協会 総務部長
監 事	錦 織 一 郎	大阪女学院 法人事務部統括部長

社団法人日本キャンプ協会 平成20・21年度 専門委員

浅野 修	基 準 整 備	自営業
池畑亜由美	情報サービス	早稲田大学非常勤講師
石川 裕光	朝霧野活C運営	おにし青少年野外活動センター 所長
石井 勝	普及サービス	自営業・山形県キャンプ協会 事務局担当
稲葉 秀實	朝霧野活C運営	自営業
井上 透	基 準 整 備	国立諫早青少年自然の家 所長
今井 正裕	指導者養成	(財)大阪府青少年活動財団 事業部企画推進室課長
浦田 憲二	朝霧野活C運営	東京成徳大学 子ども学部 准教授
遠藤 知里	朝霧野活C運営	常葉学園短期大学講師
太田 恒義	朝霧野活C運営	常葉学園大学 教授
太田 正義	情報サービス	(NPO)子どもの体験活動サポートセンター 理事長
大橋 光雄	安 全 管 理	キャンププランニング 代表
岡村 泰斗	調 査 研 究	筑波大学体育科学系 講師
甲斐 知彦	調 査 研 究	関西学院大学 教授
片岡 麻里	普及サービス	(社)ガールスカウト日本連盟 教育部長

金子 和正	出 版	東京家政学院大学児童学科 教授
神谷 稔	常務・運営会議	田上税務会計事務所
粥川 道子	安 全 管 理	北翔大学 准教授
川村 協平	朝霧野活C運営	山梨大学 教授
久保田康雄	情報サービス	国立花山青少年自然の家 次長
桑田 千照	基 準 整 備	兵庫県キャンプ協会 会長
小森 伸一	国 際 交 流	東京学芸大学 教育学部 講師
嶋 結子	国 際 交 流	(財)東京YWCA 幹事
翠尾 由美	指導者養成	(財)児童育成協会 こどもの城 主任指導員
鈴木 由美	指導者養成	YMCAスポーツ専門学校 講師
高野 孝子	国 際 交 流	(NPO)エコプラス 代表理事
高橋 伸	国 際 交 流	国際基督教大学 講師
高見 彰	安 全 管 理	関西国際大学 教授
高山 昌紀	普及サービス	アソベンチャーライフジャパン 代表
田邊 直正	出 版	(株)旬報社 企画編集部 次長
月橋 春美	調 査 研 究	宇都宮短期大学 准教授
土谷 隆	国 際 交 流	(財)東京YMCA 統括
鶴川 高司	普及サービス	有限会社「掌〜Tanagokoro」代表取締役
時本 学	国 際 交 流	(財)ラボ教育センター 理事長
時安 和行	指導者養成	中京女子大学 准教授
富山 浩三	指導者養成	大阪体育大学 体育学部 生涯スポーツ学科 教授
長井せつ子	安 全 管 理	(NPO)ワークショップFRAU 共同代表
中島安貴輝	情報サービス	日本大学芸術学部 教授・アート&グラフィック 代表
中村 正雄	指導者養成	大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授
永吉 英記	調 査 研 究	国土舘大学ウェルネス・リサーチセンター 助手
野口 和行	指導者養成	慶応義塾大学 体育研究所 専任講師
野口 透	普及サービス	川崎市黒川青少年野外活動センター 所長
畠中 彬	安 全 管 理	(財)関西テレビ青少年育成事業団 顧問
濱谷 弘志	指導者養成	(財)日本アウトワード・バウンド協会
林 綾 子	調 査 研 究	びわこ成蹊スポーツ大学 専任講師
林 健児郎	情報サービス	フリーランス
林 寿 夫	基 準 整 備	(株)野外計画・(株)PAJ 代表取締役
針ヶ谷雅子	国 際 交 流	学習院大学非常勤講師
平田 裕一	普及サービス	中京女子大学 教授
平野 吉直	調 査 研 究	信州大学 教育学部 教授
福田 年之	情報サービス	朝日新聞厚生文化事業団 事業課長
藤井三弥子	情報サービス	(株)名古屋東急ホテル CS推進室 マネージャー
眞木 潔	普及サービス	松山市役所
水沢 利栄	安 全 管 理	福井大学 教育地域科学部 准教授
森園 忠勝	普及サービス	大阪人間科学大学 准教授
師岡 文男	国 際 交 流	上智大学 文学部 保健体育研究室 教授
山田紗也子	情報サービス	フリーランス
吉松誠一郎	基 準 整 備	佐賀新聞社 デジタル戦略チーム
渡邊 仁	出 版	明治大学経営学部非常勤講師

事務局スタッフ

事務局長 吉田 大郎	課 長 秋山 千草	主 幹 高瀬 宏樹
主 査 戸室 勇児	主 事 金山 竜也	主 事 吉野 宏美

都道府県キャンプ協会一覧(平成21年度)

名 称	設 立 年 月	ホームページ アドレス
北 海 道 キャンプ協会	1992 年 6 月	
青 森 県 キャンプ協会	2005 年 11 月	
岩 手 県 キャンプ協会	1993 年 5 月	http://iwate.camping.or.jp/
宮 城 県 キャンプ協会	1998 年 10 月	
秋 田 県 キャンプ協会	1994 年 4 月	
山 形 県 キャンプ協会	1987 年 4 月	
福 島 県 キャンプ協会	1981 年 1 月	
茨 城 県 キャンプ協会	1998 年 10 月	http://ibaraki.camping.or.jp/
栃 木 県 キャンプ協会	1988 年 11 月	http://tochigi.camping.or.jp
群 馬 県 キャンプ協会	1967 年 9 月	http://gunma.camping.or.jp
(NPO)埼玉県キャンプ協会	1985 年 7 月	http://saitama.camping.or.jp
(NPO)千葉県キャンプ協会	1984 年 6 月	http://chiba.camping.or.jp
神奈川県キャンプ協会	1987 年 4 月	
(NPO)東京都キャンプ協会	1981 年 10 月	http://www.camp-tokyo.org
新 潟 県 キャンプ協会	1977 年 4 月	http://niigata.camping.or.jp/
富 山 県 キャンプ協会	1987 年 6 月	http://toyama.camping.or.jp/
石 川 県 キャンプ協会	1991 年 5 月	http://ishikawa.camping.or.jp/
山 梨 県 キャンプ協会	2009 年 3 月	
長 野 県 キャンプ協会	1998 年 2 月	
岐 阜 県 キャンプ協会	1997 年 7 月	http://gifu.camping.or.jp/
静 岡 県 キャンプ協会	1998 年 4 月	http://homepage.mac.com/camping_shizuoka/
愛 知 県 キャンプ協会	1983 年 5 月	http://www5a.biglobe.ne.jp/~aca/
三 重 県 キャンプ協会	1987 年 5 月	
滋 賀 県 キャンプ協会	1987 年 3 月	
京 都 キャンプ協会	1980 年 6 月	http://kyoto.camping.or.jp/
大 阪 府 キャンプ協会	1992 年 2 月	http://www.osaka-camping.jp/
兵 庫 県 キャンプ協会	1988 年 4 月	http://hyogo.camping.or.jp/
奈 良 県 キャンプ協会	1998 年 6 月	
和歌山県 キャンプ協会	1998 年 6 月	
鳥 取 県 キャンプ協会	2004 年 4 月	
島 根 県 キャンプ協会	1978 年 6 月	
岡 山 県 キャンプ協会	1998 年 5 月	http://okayama.camping.or.jp/
広 島 県 キャンプ協会	1995 年 11 月	http://www.hiroshima-camping.jp/
山 口 県 キャンプ協会	1969 年 4 月	http://www.yamacan.net/
徳 島 県 キャンプ協会	1997 年 10 月	
香 川 県 キャンプ協会	1982 年 8 月	http://kagawa.camping.or.jp/
愛 媛 県 キャンプ協会	1994 年 5 月	http://ehime.camping.or.jp/
高 知 県 キャンプ協会	1991 年 8 月	
福 岡 県 キャンプ協会	1989 年 4 月	
佐 賀 県 キャンプ協会	1994 年 10 月	saga.camping.or.jp/
長 崎 県 キャンプ協会	1998 年 11 月	http://nagasaki.camping.or.jp/
熊 本 県 キャンプ協会	1979 年 7 月	http://kumamoto-camping.jp/
大 分 県 キャンプ協会	2005 年 1 月	http://oita.camping.or.jp/
宮 崎 県 キャンプ協会	2009 年 12 月	
鹿児島県 キャンプ協会	1976 年 5 月	
(NPO)沖縄県キャンプ協会	1984 年 7 月	



NCAJ

National Camping Association of Japan

キャンプ中 変わる気象に 変わらぬ注意

【村岡孝司・2009年度キャンプ安全標語一般の部 最優秀作品】